

Sun Server X2-4 (旧 Sun Fire X4470 M2)

Oracle VM ソフトウェアインストールガイド

このソフトウェアおよび関連ドキュメントの使用と開示は、ライセンス契約の制約条件に従うものとし、知的財産に関する法律により保護されています。ライセンス契約で明示的に許諾されている場合もしくは法律によって認められている場合を除き、形式、手段に関係なく、いかなる部分も使用、複写、複製、翻訳、放送、修正、ライセンス供与、送信、配布、発表、実行、公開または表示することはできません。このソフトウェアのリバース・エンジニアリング、逆アセンブル、逆コンパイルは互換性のために法律によって規定されている場合を除き、禁止されています。

ここに記載された情報は予告なしに変更される場合があります。また、誤りが無いことの保証はいたしかねます。誤りを見つけた場合は、オラクル社までご連絡ください。

このソフトウェアまたは関連ドキュメントを、米国政府機関もしくは米国政府機関に代わってこのソフトウェアまたは関連ドキュメントをライセンスされた者に提供する場合は、次の通知が適用されます。

U.S. GOVERNMENT END USERS. Oracle programs, including any operating system, integrated software, any programs installed on the hardware, and/or documentation, delivered to U.S. Government end users are "commercial computer software" pursuant to the applicable Federal Acquisition Regulation and agency-specific supplemental regulations. As such, use, duplication, disclosure, modification, and adaptation of the programs, including any operating system, integrated software, any programs installed on the hardware, and/or documentation, shall be subject to license terms and license restrictions applicable to the programs. No other rights are granted to the U.S. Government.

このソフトウェアもしくはハードウェアは様々な情報管理アプリケーションでの一般的な使用のために開発されたものです。このソフトウェアもしくはハードウェアは、危険が伴うアプリケーション(人的傷害を発生させる可能性があるアプリケーションを含む)への用途を目的として開発されていません。このソフトウェアもしくはハードウェアを危険が伴うアプリケーションで使用する際、安全に使用するために、適切な安全装置、バックアップ、冗長性(redundancy)、その他の対策を講じることは使用者の責任となります。このソフトウェアもしくはハードウェアを危険が伴うアプリケーションで使用了ことに起因して損害が発生しても、オラクル社およびその関連会社は一切の責任を負いかねます。

Oracle および Java は Oracle Corporation およびその関連企業の登録商標です。その他の名称は、それぞれの所有者の商標または登録商標です。

Intel, Intel Xeon は、Intel Corporation の商標または登録商標です。すべての SPARC の商標はライセンスをもとに使用し、SPARC International, Inc. の商標または登録商標です。AMD, Opteron, AMD ロゴ、AMD Opteron ロゴは、Advanced Micro Devices, Inc. の商標または登録商標です。UNIX は、The Open Group の登録商標です。

このソフトウェアまたはハードウェア、そしてドキュメントは、第三者のコンテンツ、製品、サービスへのアクセス、あるいはそれらに関する情報を提供することがあります。オラクル社およびその関連会社は、第三者のコンテンツ、製品、サービスに関して一切の責任を負わず、いかなる保証もいたしません。オラクル社およびその関連会社は、第三者のコンテンツ、製品、サービスへのアクセスまたは使用によって損失、費用、あるいは損害が発生しても一切の責任を負いかねます。

目次

はじめに	5
パート I Oracle VM ソフトウェアのインストール	7
1 はじめに	9
サポートされる仮想マシンソフトウェア	9
Oracle VM ソフトウェアインストールの前提条件	10
Oracle VM ソフトウェアのインストールタスクの概要	11
2 Oracle VM のインストール	13
ローカルメディアまたはリモートメディアを使用した Oracle VM のインストール ..	13
始める前に	14
Oracle VM のインストール後のタスク	16
Oracle VM ソフトウェアの更新	16
Oracle VM リソースの管理	17
3 サーバーファームウェアとソフトウェアの入手	19
ファームウェアとソフトウェアの更新	19
ファームウェアとソフトウェアへのアクセスオプション	20
入手可能なソフトウェアリリースパッケージ	20
ファームウェアとソフトウェアへのアクセス	21
▼ My Oracle Support を使用したファームウェアとソフトウェアのダウンロード	21
物理メディアのリクエスト	22
更新のインストール	25
ファームウェアのインストール	25
ハードウェアドライバと OS ツールのインストール	26

パート II	Oracle VM システム管理者リファレンス	27
A	サポートされるインストール方法	29
	コンソール出力	29
	インストールブートメディア	31
	インストール先	34
B	サポートされているオペレーティングシステム	35
	サポートされているオペレーティングシステム	35
C	新規インストール時の BIOS のデフォルト設定	37
	BIOS の出荷時デフォルト設定の確認	37
	始める前に	37
	索引	41

はじめに

このガイドでは、Oracle VM ソフトウェアのインストール手順および構成情報について説明します。

注 - Sun Server X2-4 は以前は Sun Fire X4470 M2 サーバーという名前でした。この以前の名前が、まだソフトウェアに表示されることがあります。新しい製品名は、システム機能の変更を示すものではありません。

このドキュメントは、サーバーシステムを理解しているシステム管理者、ネットワーク管理者、およびサービス技術者を対象としています。

- [5 ページの「最新のソフトウェアとファームウェアの入手」](#)
- [5 ページの「このドキュメントについて」](#)
- [6 ページの「関連ドキュメント」](#)
- [6 ページの「フィードバック」](#)
- [6 ページの「サポートとアクセシビリティ」](#)

最新のソフトウェアとファームウェアの入手

Oracle x86 サーバー、サーバーモジュール (ブレード)、およびブレードシャーシのファームウェア、ドライバ、およびその他のハードウェア関連ソフトウェアは、定期的に更新されています。

手順については、[第3章「サーバーファームウェアとソフトウェアの入手」](#)を参照してください。

このドキュメントについて

このドキュメントセットは、PDF および HTML の両形式で利用できます。特定のトピック (ハードウェア設置やプロダクトノートなど) に関するすべての情報が含まれる PDF バージョンを生成するには、HTML ページの左上にある PDF ボタンをクリックします。

関連ドキュメント

ドキュメント	リンク
すべての Oracle ドキュメント	http://www.oracle.com/documentation
Sun Server X2-4	http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=SunFireX4170M3
Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.0	http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=ilom30
Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.1 (Sun Server X2-4 ソフトウェアリリース 1.3 以上用)	http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=ilom31
Oracle Hardware Installation Assistant	http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=hia

フィードバック

次でこのドキュメントについてのフィードバックをお送りいただけます。

<http://www.oracle.com/goto/docfeedback>

サポートとアクセシビリティ

説明	リンク
My Oracle Support を通じた電子的なサポートへのアクセス	http://support.oracle.com
	聴覚障害の方へ: http://www.oracle.com/accessibility/support.html
アクセシビリティに対する Oracle のコミットメントについて	http://www.oracle.com/us/corporate/accessibility/index.html

パート I

Oracle VM ソフトウェアのインストール

このセクションでは、Oracle の Sun Server X2-4 に Oracle VM ソフトウェアをインストールする方法について説明したトピックを一覧表示します。

説明	リンク
要件。インストールに関する注意事項と要件について確認するには、第 1 章を参照してください。	■ 第 1 章「はじめに」 、はじめに
手順。Oracle VM をインストールするには、適切な章を参照してください。	■ 第 2 章「Oracle VM のインストール」 、Oracle VM のインストール
リファレンス。これらのトピックを必要に応じて参照し、仮想マシンソフトウェアのインストールを実行または完了します。	■ 付録 A「サポートされるインストール方法」 、サポートされるインストール方法 ■ 付録 B「サポートされているオペレーティングシステム」 、サポートされているオペレーティングシステム ■ 付録 C「新規インストール時の BIOS のデフォルト設定」 、新規インストール時の BIOS のデフォルト設定

はじめに

この章では、サポートされる仮想マシンソフトウェアをサーバーにインストールする方法の概要について説明します。

この章で説明するトピックは次のとおりです。

- 9 ページの「サポートされる仮想マシンソフトウェア」
- 10 ページの「Oracle VM ソフトウェアインストールの前提条件」
- 11 ページの「Oracle VM ソフトウェアのインストールタスクの概要」

サポートされる仮想マシンソフトウェア

Sun Server X2-4 は、次の Oracle VM ソフトウェアをサポートします。

ソフトウェア	サポートされているバージョン
Oracle VM	リリース 2.2.1 - 3.0.3

Sun Server X2-4 上でサポートされているすべてのオペレーティングシステムの完全な更新済みの一覧については、Sun x86 サーバーの Web サイトにアクセスし、Sun Server X2-4 のページを参照してください。

<http://www.oracle.com/technetwork/server-storage/sun-x86/overview/index.html>

Oracle VM ソフトウェアインストールの前提条件

サーバーへの Oracle VM ソフトウェアのインストールを開始する前に、次の重要な注意事項について確認してください。

表 1-1 Oracle VM ソフトウェアのインストールに関する注意事項

要件	説明	詳細については、次を参照してください。
サーバーがセットアップされ稼働している。	サーバーがラックに設置されて電源が投入され、SP との通信が確立しています。	■ Sun Server X2-4 設置ガイド
Oracle VM ソフトウェアインストールプログラムをブートできるようにする配備方法が確立されている。	Oracle VM ソフトウェアをインストールするローカルまたはリモートによる配備方法を選択するためのガイドライン。	■ 付録 A 「サポートされるインストール方法」
Oracle VM インストールのハードウェア要件を満たしている。	Oracle VM では、静的 IP アドレスを設定した 2 つのシステムが必要です。 <ul style="list-style-type: none">■ 一方のシステムには、Oracle VM Server をインストールします。■ もう一方のシステムでは、次のいずれかの Linux オペレーティングシステムがインストールされた Oracle VM Manager を実行します。<ul style="list-style-type: none">- Oracle Linux リリース 4.5 以降- Red Hat Enterprise Linux リリース 4 以降	■ 『Oracle VM Server リリースノート』および『Oracle VM Manager リリースノート』： http://www.oracle.com/technetwork/documentation/vm-096300.html
RAID ボリュームの要件を満たしている。	ブートドライブを RAID 構成の一部にする場合は、オペレーティングシステムをインストールする前に、ドライブで RAID ボリュームを構成する必要があります。 <ul style="list-style-type: none">■ オプションの SGX-SAS6-R-INT-Z ホストバスアダプタ (HBA) を使用している場合、LSI 統合 RAID コントローラの構成ユーティリティを使用し、RAID ボリュームを構成する必要があります。手順については、『Sun Storage 6 Gb SAS PCIe RAID 内蔵 HBA 設置ガイド』および『LSI MegaRAID SAS Software User's Guide』を参照してください。■ オプションの SGX-SAS6-INT-Z HBA を使用している場合、BIOS 構成ユーティリティを使用し、RAID ボリュームを設定する必要があります。手順については、『Sun Storage 6 Gb SAS PCIe 内蔵 HBA 設置ガイド』を参照してください。	■ 『Sun Storage 6 Gb SAS PCIe RAID 内蔵 HBA 設置ガイド』： http://docs.oracle.com/cd/E19221-01/index.html ■ 『LSI MegaRAID SAS ソフトウェアユーザーガイド』(http://www.lsi.com/sep/Pages/oracle/sg_x_sas6-r-int-z.aspx) ■ 『Sun Storage 6 Gb SAS PCIe 内蔵 HBA 設置ガイド』(http://docs.oracle.com/cd/E19337-01/index.html)

表 1-1 Oracle VM ソフトウェアのインストールに関する注意事項 (続き)

要件	説明	詳細については、次を参照してください。
OS の新規インストール時の BIOS 設定が検証されている。	Oracle VM ソフトウェアをインストールする前に、BIOS が出荷時のデフォルトプロパティに設定されていることを確認するようにしてください。	■ 付録 C 「新規インストール時の BIOS のデフォルト設定」
OS のインストールに関する最新情報と更新を入手している。	『Sun Server X2-4 プロダクトノート』および Oracle VM ソフトウェアのリリースノートを参照して、サポートされるソフトウェアと更新に関する最新情報を入手します。	■ Sun Server X2-4 プロダクトノート

Oracle VM ソフトウェアのインストールタスクの概要

仮想マシンソフトウェアをインストールするには、次に示す手順をすべて順番に実行します。

1. Oracle VM ソフトウェアをインストールするためのメディアを入手します。
 - Oracle VM インストールプログラムの ISO イメージは、次からダウンロードできます。

<http://www.oracle.com/virtualization>

注 - Oracle VM ソフトウェアの ISO イメージを使用して、リモートインストールを実行したり、インストール CD または DVD を作成したりできます。

2. 付録 A 「サポートされるインストール方法」を参考にして、Oracle VM ソフトウェアのインストールを配備するためのインストール方法を選択し設定します。
3. 13 ページの「ローカルメディアまたはリモートメディアを使用した Oracle VM のインストール」で説明する手順に従って、Oracle VM ソフトウェアをインストールします。
4. 16 ページの「Oracle VM のインストール後のタスク」の説明に従って、適切なインストール後のタスクを確認および実行します。

Oracle VM のインストール

この章では、Oracle VM ソフトウェアのインストールに必要な手順の概要を示します。

この章で説明するトピックは次のとおりです。

- 13 ページの「ローカルメディアまたはリモートメディアを使用した Oracle VM のインストール」
- 16 ページの「Oracle VM のインストール後のタスク」

ローカルメディアまたはリモートメディアを使用した Oracle VM のインストール

このセクションの手順では、Oracle VM ソフトウェアをインストールする手順の概要を示します。この手順では、次のいずれかのソースから Oracle VM のインストールメディアをブートすることを前提にしています。

- Oracle VM CD または DVD メディアセット (内蔵または外付けの CD または DVD)
- Oracle VM ISO ソフトウェアイメージ (ネットワークリポジトリ)

注 - Oracle VM の ISO イメージを使用して、リモートインストールを実行したり、インストール CD または DVD を作成したりできます。

Oracle VM ソフトウェアをインストールするには、次の手順を参照してください。

- 14 ページの「ローカルメディアまたはリモートメディアからの Oracle VM Server のインストール」
- 15 ページの「Oracle VM Manager のインストール」

始める前に

インストールを実行する前に、次の要件を満たしている必要があります。

- Oracle VM Server および Manager のインストールに適用される注意事項をすべて満たしている必要があります。詳細は、第 1 章「はじめに」を参照してください。
- Oracle VM のドキュメントを入手します。このドキュメントを、このガイドで説明するインストール手順と一緒に使用することをお勧めします。

Oracle VM のドキュメントは、<http://www.oracle.com/technetwork/documentation/vm-096300.html> で入手できます。

▼ ローカルメディアまたはリモートメディアからの Oracle VM Server のインストール

- 1 Oracle VM Server のインストールメディアをブートできることを確認します。

- CD/DVD を使用する場合。ローカルまたはリモートの USB CD/DVD-ROM ドライブに、Oracle VM Server メディアのブートディスクを挿入します。
- ISO イメージの場合。ISO イメージが使用可能であり、Oracle ILOM リモートコンソールアプリケーションでブートディスクのイメージ (CD #1 または DVD) が選択されていることを確認します (「Devices」 > 「CD-ROM Image」)。

インストールメディアを設定する方法の詳細は、付録 A「サポートされるインストール方法」を参照してください。

- 2 サーバーの電源をリセットします。

注 - 次の手順では、Oracle ILOM 3.1 コマンド構文を使用します。Oracle ILOM 3.0 を使用している場合は、<http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=ilom30> で Oracle ILOM 3.0 ドキュメントコレクションを参照してください。

例:

- Oracle ILOM Web インタフェースから、ナビゲーションツリーで「Host Management」 > 「Power Control」を選択します。次に、「Select Action」リストボックスから「Reset」を選択して、「Save」をクリックします。
- ローカルサーバーの場合、サーバーのフロントパネルにある電源ボタンを押して (約 1 秒) サーバーの電源を切断し、次にもう一度電源ボタンを押してサーバーの電源を投入します。
- サーバー SP 上の Oracle ILOM CLI から、「reset /System」と入力します。

注- 次のイベントがすぐに発生するため、次のステップでは集中する必要があります。画面に表示される時間が短いため、メッセージを注意して観察してください。スクロールバーが表示されないように画面のサイズを拡大してもかまいません。

- 3 BIOS の電源投入時の自己診断テスト画面で、**F8** キーを押して、**Oracle VM Server** のインストールで使用する一時ブートデバイスを指定します。
「Please Select Boot Device」メニューが表示されます。
- 4 「Please Select Boot Device」メニューで、最初のブートデバイスとして外付けまたは仮想 **CD/DVD** デバイスを選択し、**Enter** キーを押します。
「Boot Device」メニューに表示されるデバイスの文字列は、デバイスタイプ、スロットインジケータ、および製品 *ID* 文字列で構成されています。
数秒後、Oracle VM Manager インストールプログラムのスプラッシュ画面が表示されます。
- 5 指示に従って、**Oracle VM Server** および **Oracle VM Agent** をインストールします。
ここで、Oracle VM インストールプログラムは Oracle VM Server と Oracle VM Agent をインストールします。
- 6 インストール中に設定したパスワードを使用して、**Oracle VM Server** に **root** ユーザーとしてログインします。

注- Oracle VM のインストールには2つのパスワードが必要です。1つは Oracle VM Server の root アカウント用、もう1つは Oracle VM エージェント用のパスワードです。必要な場合は、Oracle VM Server のインストールを完了する方法について、『Oracle VM Server インストールガイド』を参照してください。

- 7 次のいずれかの操作を実行します。
 - Oracle VM Server を管理するための Oracle VM Manager が構成されていない場合は、Oracle VM Manager をインストールする必要があります。
Oracle VM Manager をインストールするには、[15 ページの「Oracle VM Manager のインストール」](#)を参照してください。
 - Oracle VM Server を管理するための Oracle VM Manager が構成されている場合は、[16 ページの「Oracle VM のインストール後のタスク」](#)に進みます。

▼ Oracle VM Manager のインストール

- 1 **Oracle VM Manager** をインストールするシステムで、サポートされている **Linux** オペレーティングシステムを起動します。

- 2 **Oracle VM Manager** のインストールメディアがマウントされていることを確認します。
- 3 次のスクリプトを **root** ユーザーとして実行します。

```
# sh runInstaller.sh
```
- 4 指示に従って **Oracle VM Manager** をインストールします。
Oracle VM Agent のパスワードを使用して、管理インタフェースにログインする必要があります。

必要な場合は、Oracle VM Manager のインストールを完了する方法について、『Oracle VM Server インストールガイド』を参照してください。
- 5 **Oracle VM Manager** のインストール完了後に、次の手順を実行します。
 - a. **Oracle VM Management** の Web インタフェースに管理者としてログインします。
Oracle VM Manager のインストール中に作成したパスワードを入力する必要があります。
 - b. Web 管理インタフェースのオプションを使用して、サーバープールの作成および管理と、仮想マシンの作成、構成、および管理を行います。
- 6 16 ページの「**Oracle VM のインストール後のタスク**」の説明に従って、適切なインストール後のタスクを確認および実行します。

Oracle VM のインストール後のタスク

Oracle VM ソフトウェアのインストールを完了したら、次に示すインストール後のタスクを確認し、使用しているシステムで該当するタスクを必要に応じて実行します。

- 16 ページの「**Oracle VM ソフトウェアの更新**」
- 17 ページの「**Oracle VM リソースの管理**」

Oracle VM ソフトウェアの更新

Oracle VM のインストールメディアには、最新バージョンのソフトウェアが含まれていない場合があります。必要な場合は、最新のソフトウェアリリースを利用して Oracle VM ソフトウェアを更新します。ダウンロード手順については、次の Web サイトを参照してください。

<http://www.oracle.com/virtualization>

Oracle VM リソースの管理

Oracle VM リソースの構成、アクセス、および管理を行う方法については、次で Oracle VM のドキュメントライブラリを参照してください。

<http://www.oracle.com/technetwork/documentation/vm-096300.html>

サーバーファームウェアとソフトウェアの入手

このセクションでは、サーバーのファームウェアとソフトウェアにアクセスするためのオプションについて説明します。

- 19 ページの「ファームウェアとソフトウェアの更新」
- 20 ページの「ファームウェアとソフトウェアへのアクセスオプション」
- 20 ページの「入手可能なソフトウェアリリースパッケージ」
- 21 ページの「ファームウェアとソフトウェアへのアクセス」
- 25 ページの「更新のインストール」

ファームウェアとソフトウェアの更新

サーバー用のハードウェアドライバやツールなどのファームウェアおよびソフトウェアは、定期的に更新されます。これらは、ソフトウェアリリースとして入手可能になります。ソフトウェアリリースは、サーバー用の使用可能なファームウェア、ハードウェアドライバ、ユーティリティをすべて含んだ一連のダウンロード(パッチ)です。これらはすべてまとめてテストされています。ダウンロードに含まれる ReadMe ドキュメントには、以前のソフトウェアリリースからの変更点および変更されていない点について説明されています。

サーバーのファームウェアとソフトウェアは、ソフトウェアリリースが入手可能になり次第、更新してください。ソフトウェアリリースにはしばしばバグの修正が含まれるため、更新により、サーバーソフトウェアと、最新のサーバーファームウェアおよびほかのコンポーネントのファームウェアとソフトウェアとの互換性が保証されます。

ダウンロードパッケージ内の ReadMe ファイルには、ダウンロードパッケージ内の更新されたファイル、および現在のリリースで修正されたバグに関する情報が含まれます。プロダクトノートには、サポートされるサーバーソフトウェアのバージョンに関する情報も含まれます。

ファームウェアとソフトウェアへのアクセスオプション

次のオプションのいずれかを使用して、使用するサーバー用の最新ファームウェアおよびソフトウェアセットを入手します。

- **Oracle Hardware Installation Assistant** – Oracle Hardware Installation Assistant は、出荷時に Sun Server X2-4 にインストール済みであり、これを使用すればサーバーのファームウェアおよびソフトウェアを簡単に更新できます。
- Oracle Hardware Installation Assistant の詳細については、『Oracle Hardware Installation Assistant 2.5 ユーザーガイド x86 サーバー版』(<http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=hia>) を参照してください。
- **My Oracle Support** – すべてのシステムファームウェアおよびソフトウェアは、My Oracle Support の Web サイトから入手できます。
My Oracle Support Web サイトで入手可能なものの詳細については、<http://support.oracle.com> にアクセスしてください。
My Oracle Support からソフトウェアリリースをダウンロードする方法の手順については、21 ページの「[My Oracle Support を使用したファームウェアとソフトウェアのダウンロード](#)」を参照してください。
- 物理メディアのリクエスト (PMR) – My Oracle Support から入手可能なダウンロード (パッチ) を含む DVD をリクエストできます。
詳細は、22 ページの「[物理メディアのリクエスト](#)」を参照してください。

入手可能なソフトウェアリリースパッケージ

My Oracle Support では、ダウンロードは製品ファミリ、製品、およびバージョン別にグループ分けされています。バージョンには1つ以上のダウンロード (パッチ) が含まれます。

サーバーとブレードの場合、パターンは似ています。製品はサーバーです。サーバーごとにリリースセットが含まれます。これらのリリースは、実際のソフトウェア製品リリースではなく、サーバーの更新リリースのことです。これらの更新はソフトウェアリリースと呼ばれ、まとめてテスト済みの複数のダウンロードで構成されます。各ダウンロードには、ファームウェア、ドライバ、またはユーティリティが含まれます。

次の表に示すように、My Oracle Support には、このサーバーファミリ向けの同じダウンロードタイプのセットが含まれます。これらは物理メディアのリクエスト (PMR) によってリクエストすることもできます。

パッケージ名	説明	このパッケージをダウンロードする タイミング
X4470 M2 SERVER SW 1.3 – ILOM_AND_BIOS	Oracle ILOM および BIOS。	最新のプラットフォーム ファームウェアが必要です。
X4470 M2 SERVER SW 1.3 – ORACLE_HARDWARE_INSTAL LATION_ASSISTANT	Oracle Hardware Installation Assistant の回復と ISO 更新イ メージ。	Oracle Hardware Installation Assistant を手動で回復するか 更新する必要があります。
X4470 M2 SERVER SW 1.3 – TOOLS_DRIVERS_AND_FIRMW ARE_DVD	ツールおよびドライバおよび プラットフォームファーム ウェアが含まれます。この DVD イメージには Oracle VTS は含まれません。	システムファームウェアと OS 固有のソフトウェアの組み合 わせを更新する必要があります。
X4470 M2 SERVER SW 1.0 – DIAGNOSTICS	Oracle VTS 診断イ メージ。	Oracle VTS 診断イ メージが必 要です。

ファームウェアとソフトウェアへのアクセス

このセクションでは、ソフトウェアリリースファイルをダウンロードまたはリクエ
ストする方法について説明します。次を参照してください。

- 21 ページの「My Oracle Support を使用したファームウェアとソフトウェアのダウ
ンロード」
- 22 ページの「物理メディアのリクエスト」

▼ My Oracle Support を使用したファームウェアとソ フトウェアのダウンロード

- 1 次の Web サイトにアクセスします:<http://support.oracle.com>。
- 2 My Oracle Support にサインインします。
- 3 ページ上部にある「パッチと更新版」タブをクリックします。
「パッチと更新版」画面が表示されます。
- 4 「検索」画面で、「製品またはファミリ (拡張)」をクリックします。
画面に検索フィールドが表示されます。
- 5 「製品」フィールドで、ドロップダウンリストから製品を選択します。
あるいは、目的の製品が表示されるまで製品名のすべてまたは一部 (Sun Server X2-4
など) を入力します。

- 6 「リリース」フィールドで、ドロップダウンリストからソフトウェアリリースを選択します。
使用可能なすべてのソフトウェアリリースを表示するには、フォルダを展開します。
- 7 「検索」をクリックします。
ソフトウェアリリースは、ダウンロード (パッチ) のセットで構成されます。
入手可能なダウンロードについては、[20 ページの「入手可能なソフトウェアリリースパッケージ」](#)を参照してください。
- 8 パッチを選択するには、パッチ名の横にあるチェックボックスをクリックします。(Shift キーを使用すると複数のパッチを選択できます。)
アクションパネルがポップアップ表示されます。このパネルには複数のアクションのオプションが表示されます。
- 9 更新をダウンロードするには、ポップアップパネルの「ダウンロード」をクリックします。
「ファイル・ダウンロード」ダイアログボックスが表示されます。
- 10 「ファイル・ダウンロード」ダイアログボックスで、パッチの **zip** ファイルをクリックします。
パッチファイルがダウンロードされます。

物理メディアのリクエスト

Oracle Web サイトからダウンロードできない場合は、物理メディアのリクエスト (PMR) で最新のソフトウェアリリースを入手できます。

次の表に、物理メディアをリクエストするためのハイレベルタスク、および詳細情報の入手先のリンクを示します。

説明	リンク
リクエストに必要な情報を収集します。	23 ページの「物理メディアのリクエスト用の情報を収集する」
オンラインまたは Oracle サポートに電話して物理メディアをリクエストします。	23 ページの「物理メディアのリクエスト (オンライン)」 24 ページの「物理メディアのリクエスト (電話)」

物理メディアのリクエスト用の情報を収集する

物理メディアのリクエスト (PMR) を行うには、サーバーの保証またはサポート契約が必要です。

PMR を実行する前に、次の情報を収集します。

- 製品名、ソフトウェアリリースのバージョン、および必須パッチを入手します。最新のソフトウェアリリースおよびリクエストしているダウンロードパッケージ (パッチ) の名前を知っていると、リクエストを実行しやすくなります。
- *My Oracle Support* にアクセスできる場合 – 21 ページの「[My Oracle Support を使用したファームウェアとソフトウェアのダウンロード](#)」の指示に従って、最新のソフトウェアリリースを確認し、入手可能なダウンロード (パッチ) を表示します。パッチのリストを表示したあと、ダウンロード手順を続行しない場合は「パッチ検索結果」ページからほかのページに移動できます。
- *My Oracle Support* にアクセスできない場合 – 20 ページの「[入手可能なソフトウェアリリースパッケージ](#)」に記載された情報を参照して、目的のパッケージを確認し、最新のソフトウェアリリース向けのパッケージをリクエストします。
- 出荷情報を手元に用意します。リクエストの際に、連絡先、電話番号、電子メールアドレス、会社名、および出荷先住所を入力する必要があります。

▼ 物理メディアのリクエスト (オンライン)

始める前に リクエストを行う前に、23 ページの「[物理メディアのリクエスト用の情報を収集する](#)」に記載された情報を用意します。

- 1 次の Web サイトにアクセスします:<http://support.oracle.com>。
- 2 **My Oracle Support** にサインインします。
- 3 ページの右上の「問合せ先」リンクをクリックします。
- 4 「リクエストの説明」セクションに、次の情報を入力します。
 - a. 「リクエスト・カテゴリ」ドロップダウンメニューで、次を選択します。
ソフトウェアおよび OS メディアリクエスト
 - b. 「リクエスト・サマリー」フィールドに、「**Sun Server X2-4** の最新ソフトウェアリリースの **PMR**」と入力します。
- 5 「リクエスト詳細」セクションで、次の表に示されている質問に回答します。

質問	回答
メディアの入手をご希望ですか。	はい
どちらの製品ラインのメディアをご希望でしょうか。	Sun 製品
パッチをダウンロードするためのパスワードに関する問い合わせでしょうか。	いいえ
CDやDVDでパッチをご希望ですか。	はい
パッチをCDやDVDでご希望の場合、パッチの番号、OSとプラットフォームをお知らせください。	希望するソフトウェアリリースのダウンロードごとに、パッチ番号を入力してください。
ご希望の製品名とバージョンをお知らせください。	製品名: Sun Server X2-4 バージョン: 最新のソフトウェアリリース番号
希望されているメディアのOSとプラットフォームをお知らせください。	OS固有のダウンロードをリクエストする場合は、ここでOSを指定します。システムファームウェアのみをリクエストする場合は、「一般」と入力します。
メディアに言語は必要ですか。	いいえ

- 6 出荷先担当者の連絡先、電話番号、電子メールアドレス、会社名、および出荷先住所の情報を入力します。
- 7 「次へ」をクリックします。
- 8 「ファイルのアップロード」の「関連ファイル」画面で「次へ」をクリックします。
情報を指定する必要はありません。
- 9 「関連ナレッジ」画面で、リクエストに該当するナレッジ記事を確認します。
- 10 「送信」をクリックします。

▼ 物理メディアのリクエスト(電話)

始める前に リクエストを行う前に、23 ページの「物理メディアのリクエスト用の情報を収集する」に記載された情報を用意します。

- 1 次の **Oracle Global Customer Support Contacts Directory** にある該当する番号を使用して、**Oracle** サポートに電話をかけます。

<http://www.oracle.com/us/support/contact-068555.html>

- 2 Oracle サポート部門に、**Sun Server X2-4**の物理メディアのリクエスト (PMR) を行いたい旨を知らせます。
 - My Oracle Support から特定のソフトウェアリリースおよびパッチ番号の情報にアクセスできる場合は、この情報をサポート担当者に伝えます。
 - ソフトウェアのリリース情報にアクセスできない場合は、**Sun Server X2-4** の最新のソフトウェアリリースをリクエストします。

更新のインストール

次のセクションでは、ファームウェアとソフトウェアの更新のインストールに関する情報を提供します。

- 25 ページの「ファームウェアのインストール」
- 26 ページの「ハードウェアドライバと OS ツールのインストール」

ファームウェアのインストール

更新済みのファームウェアをインストールするには、次のいずれかを使用します。

- **Oracle Hardware Installation Assistant** – Oracle Hardware Installation Assistant を使用すると、Oracle から最新のファームウェアをダウンロードしてインストールできます。
- Oracle Hardware Installation Assistant の詳細については、『Oracle Hardware Installation Assistant 2.5 ユーザーガイド x86 サーバー版』(<http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=hia>) を参照してください。
- **Oracle Enterprise Manager Ops Center** – Ops Center Enterprise Controller で自動的に Oracle から最新のファームウェアをダウンロードすることも、Enterprise Controller に手動でファームウェアをロードすることもできます。どちらの場合も、Ops Center が 1 つ以上のサーバー、ブレード、またはブレードシャーシ上にファームウェアをインストールできます。

詳細は、<http://www.oracle.com/us/products/enterprise-manager/044497.html> を参照してください。

- **Oracle Hardware Management Pack** – Oracle Hardware Management Pack 内の fwupdate CLI ツールを使用すると、システム内部のファームウェアを更新できます。
詳細は、<http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=ohmp> で Oracle Hardware Management Pack ドキュメントライブラリを参照してください。
- **Oracle ILOM** – Oracle ILOM および BIOS ファームウェアは、Oracle ILOM Web インタフェースまたはコマンド行インタフェースを使用して更新可能な唯一のファームウェアです。

詳細は、<http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=ilom30> の Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.0 ドキュメントライブラリを参照してください。

Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.1 のドキュメントライブラリは <http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=ilom31> でアクセスできます。

ハードウェアドライバと **OS** ツールのインストール

Oracle Hardware Management Pack などの、更新されたハードウェアドライバおよびオペレーティングシステム (OS) 関連のツールは、Oracle Enterprise Manager Ops Center を使用してインストールできます。

詳細は、<http://www.oracle.com/us/products/enterprise-manager/044497.html> を参照してください。

パート II

Oracle VM システム管理者リファレンス

必要に応じて次のシステム管理者リファレンスを参照し、Oracle VM ソフトウェアのインストールを実行または完了してください。

説明	リンク
Oracle VM ソフトウェアインストールプログラムを配備するためのインストール環境の選択および設定に関するガイドライン	付録 A 「サポートされるインストール方法」
本書の発行時点で Server X2-4 サーバーでサポートされているオペレーティングシステムの完全なリスト	付録 B 「サポートされているオペレーティングシステム」
Oracle VM ソフトウェアのインストールを実行する前に、BIOS のデフォルトプロパティが設定されていることを確認する手順	付録 C 「新規インストール時の BIOS のデフォルト設定」



付 録 A

サポートされるインストール方法

サーバーに Oracle VM ソフトウェアをインストールする最適な方法を決定するには、この付録で説明している次の内容を検討してください。

- [29 ページの「コンソール出力」](#)
- [31 ページの「インストールブートメディア」](#)
- [34 ページの「インストール先」](#)

コンソール出力

[表 A-1](#) に、オペレーティングシステムをインストールする際の出力と入力を表示するためのコンソールを一覧表示します。

表 A-1 OS インストールを実行する際のコンソールオプション

コンソール	説明	設定要件
ローカルコンソール	<p>ローカルコンソールをサーバー SP に直接接続することにより、OS のインストールやサーバーの管理を実行できます。</p> <p>ローカルコンソールの例として、次のものがあります。</p> <ul style="list-style-type: none">■ シリアルコンソール■ VGA コンソール (USB キーボードおよびマウスを使用)	<ol style="list-style-type: none">1. ローカルコンソールをサーバーに接続します。 詳細は、『Sun Server X2-4 設置ガイド』の「サーバーへのケーブルの接続」を参照してください。2. Oracle ILOM プロンプトで、Oracle ILOM ユーザー名とパスワードを入力します。3. シリアルコンソール接続の場合のみ、start /SP/console と入力して、ホストのシリアルポートとの接続を確立します。 ビデオ出力がローカルコンソールに自動的にルーティングされます。 <p>サーバー SP との接続の確立方法については、http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=ilom31 にある Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.1 ドキュメントライブラリを参照してください。</p> <p>Oracle ILOM 3.0 を使用している場合は、http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=ilom30 にある Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.0 ドキュメントライブラリにアクセスしてください。</p>

表 A-1 OS インストールを実行する際のコンソールオプション (続き)

コンソール	説明	設定要件
リモートコンソール	<p>サーバー SP へのネットワーク接続を確立することにより、リモートコンソールから OS のインストールやサーバーの管理を行うことができます。</p> <p>リモートコンソールの例には、次のものがあります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ Oracle ILOM リモートコンソールアプリケーションを使用した Web ベースのクライアント接続 ■ シリアルコンソールを使用した SSH クライアント接続 	<ol style="list-style-type: none"> 1. サーバー SP の IP アドレスを確立します。 詳細は、『Sun Server X2-4 設置ガイド』を参照してください。 2. リモートコンソールとサーバー SP の間の接続を確立します。 Web ベースのクライアント接続の場合は、次の手順を実行します。1) Web ブラウザにサーバー SP の IP アドレスを入力します。2) Oracle ILOM Web インタフェースにログインします。3) Oracle ILOM リモートコンソールを起動して、ビデオ出力をサーバーから Web クライアントにリダイレクトします。4) 「Device」メニューでデバイスの切り替え (マウス、キーボードなど) を有効にします。 SSH クライアント接続の場合は、次の手順を実行します。1) シリアルコンソールからサーバー SP への SSH 接続を確立します (<code>ssh root@ILOM_SP_ipaddress</code>)。2) Oracle ILOM コマンド行インタフェースにログインします。3) <code>start /SP/console</code> と入力してサーバーから SSH クライアントへシリアル出力をリダイレクトします。 <p>ILOM SP へのリモート接続の確立や ILOM リモートコンソールの使用については、Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.0 または 3.1 のドキュメントライブラリを参照してください。</p>

インストールブートメディア

サーバーへのオペレーティングシステムのインストールを開始するには、ローカルまたはリモートのインストールメディアソースをブートします。表 A-2 に、サポートされているメディアソースおよび各ソースのセットアップ要件を示します。

表 A-2 OS インストール実行のためのブートメディアオプション

インストールメディア	説明	設定要件
ローカルブートメディア	<p>ローカルブートメディアには、サーバー上の組み込み型ストレージデバイスまたはサーバーに接続された外付けのストレージデバイスが必要です。</p> <p>サポートされている OS のローカルブートメディアソースには、次のものがあります。</p> <ul style="list-style-type: none">■ CD/DVD-ROM または USB インストールメディア、および該当する場合はフロッピーデバイスドライバメディア	<ol style="list-style-type: none">1. 使用しているサーバーに組み込み型ストレージデバイスがない場合は、サーバーの前面または背面のパネルに適切なストレージデバイスを接続します。2. ローカルデバイスをサーバーに接続する方法については、『Sun Server X2-4 設置ガイド』の「サーバーへのケーブルの接続」を参照してください。

表 A-2 OS インストール実行のためのブートメディアオプション (続き)

インストールメディア	説明	設定要件
リモートブートメディア	<p>リモートメディアでは、ネットワークを介してインストールをブートする必要があります。ネットワークインストールは、リダイレクトされたブートストレージデバイスから開始する必要があります。</p> <p>サポートされている OS のリモートメディアソースには、次のものがあります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ CD/DVD-ROM インストールメディア、および該当する場合はフロッピーデバイスドライバメディア ■ CD/DVD-ROM の ISO インストールイメージ、および該当する場合はフロッピーの ISO デバイスドライバメディア 	<p>リモートストレージデバイスからブートメディアをリダイレクトするには、次の手順を実行します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ブートメディアを、次のようなストレージデバイスに挿入します。 CD/DVD-ROM の場合、内蔵または外付け CD/DVD-ROM ドライブにメディアを挿入します。 CD/DVD-ROM ISO イメージの場合、ネットワーク共有された場所で ISO イメージがすぐに利用できることを確認します。 デバイスドライバフロッピーメディア (該当する場合) の場合、フロッピーメディアを外付けのフロッピードライブに挿入します。 デバイスドライバフロッピーの ISO イメージの場合、ISO イメージが (該当する場合) ネットワーク共有された場所または USB ドライブ上ですぐに利用できることを確認します。 2. サーバー Oracle ILOM SP への Web ベースのクライアント接続を確立し、Oracle ILOM リモートコンソールアプリケーションを起動します。詳細は、表 A-1 に示す Web ベースのクライアント接続に関する設定要件を参照してください。 3. Oracle ILOM リモートコンソールアプリケーションの「Devices」メニューで、次のようなブートメディアの場所を指定します。 CD/DVD-ROM ブートメディアの場合は、「CD-ROM」を選択します。 CD/DVD-ROM ISO イメージブートメディアの場合は、「CD-ROM Image」を選択します。 フロッピーデバイスドライバブートメディアの場合は、「Floppy」を選択します (該当する場合)。 フロッピーイメージのデバイスドライバブートメディアの場合は、「Floppy Image」を選択します (該当する場合)。 <p>Oracle ILOM リモートコンソールの詳細は、Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.0 または 3.1 のドキュメントライブラリを参照してください。</p>

インストール先

表 A-3 に、オペレーティングシステムのインストールに使用できる、サポートされるインストール先を示します。

表 A-3 OS インストールのインストール先

インストール先	説明	設定要件	サポートされる OS
ローカルハード ディスクドライブ (HDD) または ソリッドステート ドライブ (SSD)	サーバーに取り付けられている ハードディスクドライブまたは半 導体ドライブはどれも、オペ レーティングシステムのインス トール先として選択できます。	HDD または SSD がサーバーに正しく取り 付けられていて、電源が入っていることを 確認します。 HDD または SSD の取り付けおよび電源の 投入方法については、『Sun Server X2-4 サービスマニュアル』を参照してくださ い。	付録 B 「サポート されているオペ レーティングシス テム」に示す、サ ポートされている すべてのオペ レーティングシス テム。
ファイバチャネル (FC) Storage Area Network (SAN) デ バイス	ファイバチャネル PCIe ホストバス アダプタ (HBA) を備えた サーバーでは、オペレーティング システムを外付けの FC スト レージデバイスにインストールす ることも選択できます。	<ul style="list-style-type: none">■ サーバーに FC PCIe HBA が正しく取り 付けられていることを確認します。 サーバーへの PCIe HBA オプションの取 り付け方法については、『Sun Server X2-4 サービスマニュアル』を参照して ください。■ ホストでストレージを認識できるよう に SAN を設置および構成します。 手順については、FC HBA に付属のド キュメントを参照してください。	付録 B 「サポート されているオペ レーティングシス テム」に示す、す べてのオペ レーティングシス テム。

サポートされているオペレーティングシステム

この付録の表 B-1 では、このドキュメントの発行時に Sun Server X2-4 でサポートされているオペレーティングシステムについて説明します。

Sun Server X2-4 でサポートされているオペレーティングシステムの最新リストについては、Sun x86 サーバーの Web サイトにアクセスして、Sun Server X2-4 のページに移動してください。

<http://www.oracle.com/technetwork/server-storage/sun-x86/overview/index.html>

サポートされているオペレーティングシステム

Sun Server X2-4 は、次のオペレーティングシステムまたはその後継のリリースのインストールおよび使用をサポートしています。

表 B-1 サポートされているオペレーティングシステム

オペレーティングシステム	サポートされているバージョン	追加情報
Oracle 仮想マシンソフトウェア	■ Oracle VM 2.2.1 - 3.0.3	Sun Server X2-4 Oracle VM ソフトウェアインストールガイド
Oracle Solaris	■ Oracle Solaris 11 11/11 ■ Oracle Solaris 10 8/11 ■ Oracle Solaris 10 9/10	Sun Server X2-4 Oracle Solaris オペレーティングシステムインストールガイド

表 B-1 サポートされているオペレーティングシステム (続き)

オペレーティングシステム	サポートされているバージョン	追加情報
Linux	Oracle Linux 5.5 - 6.2 (64 ビット) Oracle Unbreakable Enterprise Kernel for Linux 5.6 - 6.1 Red Hat Enterprise Linux (RHEL) 5.5 - 6.0 (64 ビット) SUSE Linux Enterprise Server (SLES) 11 SP1 (64 ビット) SUSE Linux Enterprise Server (SLES) 11 SP2 (64 ビット)	Sun Server X2-4 Linux オペレーティングシステムインストールガイド
Windows	<ul style="list-style-type: none">■ Microsoft Windows Server 2008 SP2、Standard Edition (64 ビット)■ Microsoft Windows Server 2008 SP2、Enterprise Edition (64 ビット)■ Microsoft Windows Server 2008 SP2、Datacenter Edition (64 ビット)■ Microsoft Windows Server 2008 R2、SP1 (64 ビット)■ Microsoft Windows Server 2008 R2、Standard Edition (64 ビット)■ Microsoft Windows Server 2008 R2、Enterprise Edition (64 ビット)■ Microsoft Windows Server 2008 R2、Datacenter Edition (64 ビット)	Sun Server X2-4 Windows オペレーティングシステムインストールガイド

新規インストール時の BIOS のデフォルト設定

ディスクドライブに新しいオペレーティングシステムをインストールする場合は、オペレーティングシステムのインストールを実行する前に、次の BIOS 設定が適切に構成されていることを確認するようにしてください。

- システム時間
- システム日付
- ブート順序

BIOS の出荷時デフォルト設定の確認

BIOS 設定ユーティリティでは、必要に応じて BIOS 設定を表示および編集するだけでなく、最適なデフォルト値を設定することもできます。F2 キーを押して BIOS 設定ユーティリティで変更した設定はすべて、次回に設定変更するまで常時使用されます。

F2 キーを使用してシステムの BIOS 設定を表示または編集するだけでなく、BIOS の起動中に F8 キーを使用して、一時ブートデバイスを指定できます。F8 キーを使用して一時ブートデバイスを設定した場合、この変更は現在のシステムブートのみで有効です。一時ブートデバイスでブートしたあとは、F2 キーで指定した常時ブートデバイスが有効になります。

始める前に

BIOS 設定ユーティリティにアクセスする前に、次の要件を満たしていることを確認します。

- サーバーにハードディスクドライブ (Hard Disk Drive、HDD) または半導体ドライブ (Solid State Drive、SSD) が搭載されています。
- HDD または SSD がサーバーに適切に設置されています。詳細は、『Sun Server X2-4 サービスマニュアル』を参照してください。

- サーバーへのコンソール接続が確立されています。詳細は、表 A-1 を参照してください。

▼ 新規インストール時の BIOS 設定の表示または編集

- 1 サーバーの電源をリセットします。

注- 次の手順では、Oracle ILOM 3.1 コマンド構文を使用します。Oracle ILOM 3.0 を使用している場合は、<http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=ilom30> で Oracle ILOM 3.0 ドキュメントコレクションを参照してください。

例:

- **Oracle ILOM Web** インタフェースから、ナビゲーションツリーで「**Host Management**」>「**Power Control**」を選択します。次に、「**Select Action**」リストボックスから「**Reset**」を選択して、「**Save**」をクリックします。
- ローカルサーバーから、サーバーのフロントパネルの電源ボタンを押して (約 1 秒) サーバーの電源を切り、電源ボタンをもう一度押してサーバーの電源を入れます。
- **Oracle ILOM CLI** から、「**reset /System**」と入力します。

BIOS 画面が表示されます。

- 2 BIOS 画面でプロンプトが表示されたら、**F2** キーを押して BIOS 設定ユーティリティにアクセスします。

しばらくすると、BIOS 設定ユーティリティが表示されます。

- 3 出荷時のデフォルト値に設定するために、次を実行します。

- a. **F9** を押すと、最適な出荷時のデフォルト設定が自動的に読み込まれます。
メッセージが表示され、「**OK**」を選択してこの操作を続けるか、「**CANCEL**」を選択してこの操作を取り消すよう指示されます。
- b. メッセージで「**OK**」を強調表示して、**Enter** キーを押します。
BIOS 設定ユーティリティ画面が表示され、システム時間フィールドの最初の値でカーソルが強調表示されます。

- 4 BIOS 設定ユーティリティで次の手順を実行して、システム時間またはシステム日付に関係する値を編集します。
 - a. 変更する値を強調表示します。
上下の矢印キーを使用して、システムの時間と日付の選択を変更します。
 - b. 強調表示されたフィールドの値を変更するには、次のキーを使用します。
 - プラス (+) を押すと、表示されている現在の値が増加します
 - マイナス (-) を使用すると、現在表示されている値が減少します
 - **Enter** を押すと、カーソルが次の値フィールドに移動します
 - 5 ブート設定にアクセスするには、「**Boot**」メニューを選択します。
「Boot Settings」メニューが表示されます。
 - 6 「**Boot Settings**」メニューで、下矢印キーを使用して「**Boot Device Priority**」を選択し、**Enter** キーを押します。
「Boot Device Priority」メニューが表示され、認識されているブートデバイスの優先順位が示されます。リストの先頭のデバイスが、ブートの優先度がもっとも高いデバイスです。
 - 7 「**Boot Device Priority**」メニューで次を実行して、リストの最初のブートデバイスエントリを編集します。
 - a. 上下矢印キーを使用してリストの先頭のデバイスを選択し、**Enter** を押します。
 - b. 「**Options**」メニューで、上下矢印キーを使用してデフォルトの常時ブートデバイスを選択し、**Enter** キーを押します。
「Boot Device Priority」メニューおよび「Options」メニューに一覧表示されるデバイス文字列は、デバイスタイプ、スロットインジケータ、および製品 ID 文字列の形式です。
-
- 注- 変更する各デバイス項目に対して手順 7a および手順 7b を繰り返して、リスト内のほかのデバイスのブート順を変更できます。
-
- 8 変更を保存して BIOS 設定ユーティリティを終了するには、**F10** キーを押します。
または、「Exit」メニューで「Save」を選択して変更を保存し、BIOS 設定ユーティリティを終了することもできます。変更を保存して設定を終了することを確認するメッセージが表示されます。メッセージダイアログで「OK」を選択して、**Enter** を押します。

注 - Oracle ILOM リモートコンソールを使用している場合、F10 キーはローカル OS に
トラップされます。コンソールのいちばん上で使用できる「Keyboard」ドロップダ
ウンメニューに一覧表示される F10 オプションを使用してください。

索引

B

BIOS

- 設定ユーティリティー, 38, 39
- 電源投入時の自己診断テスト画面, 15

F

- F10 キー、Oracle ILOM リモートコンソールの, 40

M

- My Oracle Support, 20

O

- Oracle Enterprise Manager Ops Center, 25
- Oracle Hardware Installation Assistant, 20, 25
- Oracle Hardware Management Pack, 25
- Oracle Integrated Lights Out Manager, 25
- Oracle VM
 - 更新, 16
 - サポートされるバージョン, 9

R

- RAID ボリュームの構成, 10

あ

- アクセシビリティリソース, 6

い

- インストール先, 34
- インストールの前提条件, 11
- インストールブートメディア, 31

お

- オペレーティングシステム、サポートされている, 35

さ

- サーバーのリセット, 14

そ

- ソフトウェアの更新、ダウンロード, 16, 21
- ソリッドステートドライブ、インストール先として, 34

と

- ドキュメント
 - Oracle VM, 14

ドキュメント (続き)

関連, 6

ろ

ローカルコンソール、OS インストールで使用される, 30

は

ハードウェアドライバ、インストール, 26

ハードディスクドライブ、インストール先として, 34

パスワード、インストール, 15

パッチ、入手可能, 21

ふ

ファームウェアの更新

インストール, 25

ダウンロード, 21

ファイバチャネル Storage Area Network デバイス、インストール先として, 34

ブートメディア

リモート, 33

ローカル, 32

物理メディア

オンラインリクエスト, 23

電話によるリクエスト, 24

め

メニュー

Boot Device Priority, 39

Boot Settings, 39

Options、BIOS 構成中, 39

Please Select Boot Device, 15

り

リモートコンソール、OS インストールで使用される, 31